



# 令和5年度 果樹情報 第18号

(令和6年3月1日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (1月～2月、果樹研究所)

平均気温は、1月が 3.2℃と平年より 1.8℃高く、2月が 4.0℃と平年より 2.0℃高く経過しました。

降水量は、1月が 73.5 mmと平年比 121%、2月が 36.0 mmと平年比 70%でした。

日照時間は、1月が 159.9 時間と平年比 110%、2月が 177.1 時間と平年比 103%でした。

## 2 発育予測

仙台管区気象台が2月 29 日に発表した1か月予報 (3月2日～4月1日) では、今後の気温は平年並から高く推移すると見込まれます。

### ●東北地方1か月予報 (仙台管区気象台 令和6年2月29日発表)

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40%です。

週別の気温は、1週目 (3/ 2～3/ 8) は、平年並の確率 50%です。

2週目 (3/ 9～3/15) は、平年並または高い確率ともに 40%です。

3～4週目 (3/16～3/29) は、平年並または高い確率ともに 40%です。

### (1) 果樹研究所 (2月29日現在)

果樹研究所 (福島市飯坂町) における果樹の発芽は、今後の気温が平年より 2℃高く経過した場合、もも「あかつき」が3月19日ごろで平年より5日早く、なし「幸水」が3月27日ごろで平年より5日早く、りんご「ふじ」が3月23日ごろで平年より4日早いと予測されます (表1)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が2℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることがあるため注意が必要です。

表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測] (果樹研究所)

	発芽日		今後の気温経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	3月16日	3月24日	3月21日	<b>3月19日</b>	3月25日	<b>3月21日</b>
幸水	3月22日	4月1日	3月31日	<b>3月27日</b>	4月5日	<b>3月31日</b>
ふじ	3月17日	3月27日	3月26日	<b>3月23日</b>	3月29日	<b>3月25日</b>

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります

### (2) 会津地域研究所 (2月29日現在)

会津地域研究所 (会津坂下町) における果樹の発芽は、今後の気温が平年より 2℃高く経過した場合、りんご「ふじ」が3月24日ごろで平年より8日早く、かき「会津身不知」が4月5日ごろで平年より9日早いと予測されます (表2)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が2℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることがあるため注意が必要です。

表2 発芽予測日〔予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測〕（会津地域研究所）

	発芽日		今後の気温経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
ふじ	3月27日	4月1日	3月27日	<b>3月24日</b>	3月31日	<b>3月27日</b>
会津身不知	4月2日	4月14日	4月8日	<b>4月5日</b>	4月12日	<b>4月8日</b>

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

注3) 会津身不知では3月が極端な高温で推移した場合に、予測誤差が大きくなる傾向があります

気象庁〔営農活動に役立つ気象情報〕

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

### 3 栽培上の留意点

#### (1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

#### (2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

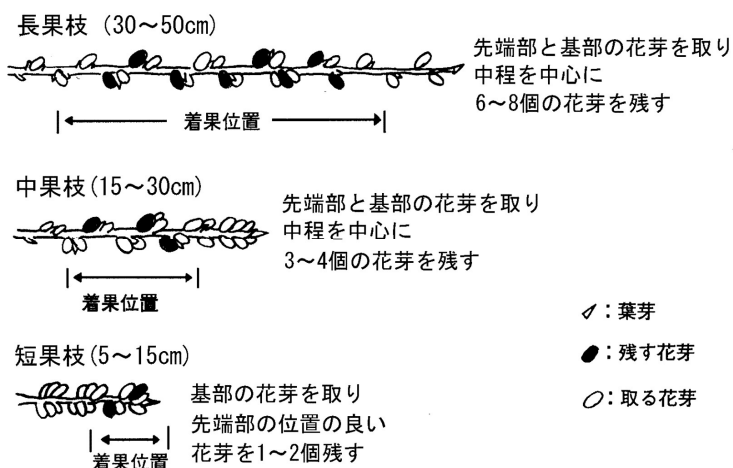


図1 ももの摘らい方法

### 4 病虫害防除上の留意点

今年の発芽日は、平年に比べて早まる見込みです。

発芽前の防除は、時期が遅れないように注意し、週間天気予報を確認しながら、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

#### (1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

#### (2) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

#### (3) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(4) な し

黒星病及びハダニ類に対して、発芽10日前までに石灰硫黄合剤 10倍を散布しましょう。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬病虫害が多発した園地では散布が必要です。

また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑が見られる枝では芽基部感染の可能性があるので、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、発芽 10 日前までの石灰硫黄合剤に替えて機械油乳剤 95 又はハーベストオイルを使用し防除を行いますが、樹勢が低下した樹には使用しないよう注意しましょう。

(5) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施しましょう。

**病虫害の発生予察情報・防除情報**

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行:福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>